



千葉市の紙芝居

# かづきとみーこの 4つのたからもの

①

かづきくんとみーこちゃんは、  
なかよしきょうだい。  
今日もいっしょに、  
いつもの公園であそんでいました。

みーこ 「おにいちゃん、見て！ ここ、穴がある！」  
かづき 「うわあ、なんだそれ！」

おにいちゃんのかづきくんが、  
そろりそろりとちかづくと、  
(つるっ！)

なんと、足がすべって、穴におちてしまいました。

みーこ 「おにいちゃんっ！」  
いもうとのみーこちゃんも、  
かづきくんのあとをおいかけて……  
(つるんっ！)

みーこ 「うわああああ！」  
(ひゆるるるる！)

—ぬく—

補足 (大人のかたへ)

子どもらしく元気に

4つの地域資源については「千葉市都市アイデンティティ特設サイト」もご覧ください。



## 【この紙芝居について】

千葉市では、本市固有の歴史やルーツに基づく「加曾利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」の4つの地域資源を活用しながら、千葉市らしさである「都市アイデンティティ」を確立し、市民の愛着や誇りを醸成することで、市内外から選ばれる都市となることを目指しています。

この紙芝居は、4つの地域資源について幼児や小学校低学年の子どもたちに広く親しみ知ってもらうことを目的に制作したものです。ぜひ多くの場でご活用ください。



②

(どっすーん!)

かづき 「いてててて、あれ? ここはどこだろう?」

まわりは知らないところで、

ふしぎなかたちをしたおウチがあります。

ふたりがこまっていると、

コッピ 「おおっと、これはびっくり。ぼくはコッピ。

きみたちは、どこからきたんだい?」

かづき 「穴<sup>あな</sup>におっこちて、気<sup>き</sup>がいたら、

ここにいたんだ……」

かづき 「ぼくたち、帰<sup>かえ</sup>れなくなっちゃったのかな……」

みーこ 「おにいちゃん、どうしよう……」

コッピ 「なるほど、それはたいへんだ。

それじゃあ、ぼくがおウチまで

つれて行ってあげるよ!」

そこで、ふたりは、

コッピについていくことにしました。

ーぬくー

「ふしぎなかたちをしたおウチ」

縄文時代の人々は、深さ50cm程度の竪穴に柱を立て萱(かや)を屋根にした竪穴住居で生活していました。

「コッピ」

コアシサシをイメージしたキャラクターです。

コアシサシは、検見川の浜で営巣活動が確認されている渡り鳥で、1993(平成5)年に市の鳥に制定されました。

困ったようすで



③

コッピ<sup>ある</sup>ーと歩いていくと、  
なにかをつくっている人々<sup>ひとびと</sup>がいました。

かづき おんなひと  
女の人 「こんにちは。なにをしているんですか？」  
「あら、こんにちは。」

つち  
土で、うつつわをつくっているのよ」

かづき 「へえ、ねんどあそびみたいでおもしろそう！

ぼくたちもおてつだいでいいですか？」

おんなひと  
女の人 「ええ、いいですよ」

つち  
こねこね、ぺたぺた、こねこね、ぺたぺた……  
土をまるめて、のばしたりかさねたり……

ふたりは、土<sup>つち</sup>のうつつわを

いっしょにつくらせてもらって、

ドキドキワクワク。

—ぬく—

#### 【加曾利貝塚】

貝塚は、縄文時代の人々が食べた後の貝がらや動物の骨、使った道具などが積み上がってできた遺跡です。千葉市は、国内に約2400か所ある貝塚のうち約120か所が集中する貝塚のまちです。その中でも最大の加曾利貝塚は、縄文時代中期(約5000〜4000年前)の北貝塚と、後期(約4000〜3000年前)の南貝塚が連結し、上空から見ると8字形をした日本最大級の貝塚を伴う集落遺跡です。2017(平成29)年10月には貝塚としては国内初の「特別史跡」に指定されました。

「土のうつつわ」  
縄文時代の人々は、土で形をつくり、焼いて固めた土器で、煮炊きや貯蔵などをしていました。



④

男の人 おとこひと

「ありがとう、とてもたすかったよ」

人々は、てつだってくれたお礼にと、

たくさんの料理をごちそうしてくれました。

大きなお肉や木の实のおだんご、  
お魚や貝のおいしいスープ……。

みんな、おなかいっぱい、大まんぞく。

コッピーは、ごきげんになって、

バツサバツサと羽ばたきながら、

ふしぎな歌をうたいました。

コッピー  
「キューキュツキュ キューキュツキュ  
ドキドキ パクパク キュ〜♪」

男の人 おとこひと

「わっはっは、なんてゆかいなんだ！

みんなどうもありがとう」

男の人は、よろこんで

ピカピカ光るきれいな石をくれました。

ーぬくー

リズムカルに

楽しそうに

「ピカピカ光るきれいな石」

縄文時代の人々は、石や動物の骨などでできた装飾品を身に付けており、加曽利貝塚でも腕輪や首飾りなどがたくさん発掘されています。



⑤

しばらくすすんでいくと、  
大きな池いけにつきました。

コッピ― 「あれ？ また、だれかがいるよ」

みーこ 「こんにちは、なにをしているんですか？」

女の人おんなひと 「オオガハスというお花はなのタネを

うえているのよ」

優しく

みーこ 「わあ、お花はなのタネ、うえてみたい！

いっしょにやらせて！」

女の人おんなひと 「ええ、いいですよ」

子どもらしく元気に

ピチャピチャ、ギュツギュツ、

ピチャピチャ、ギュツギュツ……

池いけに入はいったり、泥どろをほったり……

ふたりは、タネをいっしょに

うえさせてもらって、ドキドキワクワク。

―ぬく―

### 【オオガハス】

オオガハスは、およそ2000年前の実からよみがえった古代のハスです。

1951（昭和26）年、千葉市花見川区にある現・東京大学検見川総合運動場で大賀一郎博士が発見し、この名がつけました。  
国内各地・海外各国に分根されており、友好と平和の使者として親しまれています。

1993（平成5）年には、市の花に制定されました。



⑥

かづき 「このお花は、いつ咲くんだらう?」

コッピー 「よし、それじゃあ、ぼくにまかせろ!」

コッピーは、バツサバツサと羽ばたきながら、  
またふしぎな歌をうたいました。

コッピー 「キューキュツキュ キューキュツキュ

ハスハス ハナハナ キュ〜♪」

すると、なんとということでしょう。  
みんなでうえたタネから芽がでて、  
みるみるうちに大きくなり、  
池は、たくさんのオオガハスの花で  
いっぱいになったのです。

女の子

「まあ、すごいわ!」

みんな、どうもありがとう」

女の子はとてもよろこんで、お礼に  
オオガハスのタネをくれました。

ーぬくー

「オオガハスの花」

毎年6月下旬から7月  
上旬に開花の最盛期を迎  
えます。

早朝に開花し、11時頃  
には花が閉じてしまうの  
でなるべく早い時間の鑑  
賞がおすすめです。

市内では中央区の千葉  
公園や花見川区のしらさ  
ぎ公園などで栽培されて  
います。

リズムカルに

盛り上がるように

喜んだようすで



⑦

またしばらくすすんでいくと、とつぜん、  
ふたりの前に大きなイノシシがあらわれました。

コッピ― 「あつ、あぶない！ ふたりとも、にげるんだ」

焦ったようすで

そのときです。

おさむらい 「やあやあ、イノシシめ！

低い声で力強く

らんぼうはやめて、おとなしく山へ帰るのじゃ」

大きな声がするほうを見ると、

りっぱな馬にのったおさむらいさんが、  
ドシドシとこちらへ向かってきました。

イノシシは、その声とすがたに、

びっくりぎょうてん。

いちもくさんに山へにげ帰っていきました。

ーぬくー

### 【千葉氏】

千葉氏は、桓武天皇の血を引く関東の名族です。1126（大治元）年6月に千葉常重（つねしげ）が千葉に本拠を移した  
ことにより、千葉の町の繁栄が始まったといわれており、千葉市では6月1日を「千葉開府の日」としています。  
常重の子、常胤（つねたね）は、源頼朝を助け、鎌倉幕府の成立に大きく貢献しました。





⑧

かづき 「たすけてくれてありがとう」

つねたね 「わしは、ちばつねたねという者<sup>もの</sup>じゃ。

きみたちは、なにをしているのかな?」

かづき 「ぼくたち、おウチに帰<sup>かえ</sup>るところなんです」

つねたね 「なに、そうか。よし、

あんぜんなところまでわしが送<sup>おく</sup>ってしんぜよう」

つねたねさんの馬<sup>うま</sup>は、ビュービューと、

風<sup>かぜ</sup>よりもはやく走<sup>はし</sup>って

ふたりをはこんでくれました。

みーこ 「つねたねさん、お馬<sup>うま</sup>さん、どうもありがとう。

とってもはやいのね」

コッピーもよろこんで、

またまたふしぎな歌<sup>うた</sup>をうたいました。

コッピー 「キューキュツキュ キューキュツキュ

ツネツネ タネタネ キュー♪」

つねたね 「なんのなんの。

またあぶない目<sup>め</sup>にあわないうように、

これをあげようかのお」

つねたねさんは、ふたりに、

ふしぎなもようが入<sup>はい</sup>ったおまもりをくれると、

帰<sup>かえ</sup>っていきました。

うれしそうに

リズムカルに

「ふしぎなもよう」

千葉氏は、月や星をか  
たどった家紋を用いてい  
ました。

千葉市の市章は、この  
「月星紋」に千葉の「千」  
の文字を組み合わせたも  
のです。

—ぬく—

月星紋







9

またまたコッピートすすんでいくと、  
白い砂浜しろすなはまがひろがる海うみにつきました。

かづき 「うわあ！ 海うみだ、

とってもきもちがいいところだね」

みーこ 「わたしも海うみ、大だいすき！

でも、ちょっとよごれているね……」

かづき 「ほんとだ……。

ねえ、ぼくたちで、海うみをきれいにしようよ」

みーこ 「うん、わたしもきれいな海うみがすき！」

みーこちゃんもさんせいして、

みんなでそうじすることにしました。

ーぬくー

#### 【海辺】

千葉市の海辺は、江戸時代の葛飾北斎の浮世絵にも描かれ、遠浅の海は海苔や貝類などの漁業の場でした。また、明治時代から昭和時代には保養地として海水浴や潮干狩りのシーズンには多くの人でにぎわいました。

千葉県では、1950年代になると県産業の工業化により埋め立てが行われ、工業団地や住宅団地が建設されました。

残念そうに



⑩

ふたりはコッピーといっしょに、  
白い砂浜しろすなはまをせっせとそうじしました。

みーこ 「すごくきれいになった!」

かづき 「うん、やっぱりきれいな海うみはきもちいいね」

コッピーもうれしそうに、

またまたふしぎな歌うたをうたいました。

コッピー 「キューキュツキュ キューキュツキュ

ウミウミ キラキラ キュ〜♪」

みーこ 「あれ? まだ、なにかがおちているよ」

みーこちゃんの足あしもとに、

キラキラ光ひかる貝かいがらがおちていました。

コッピー 「海うみからのお礼れいかもしれないね」

ふたりはきれいな貝かいがらを  
もって帰かえることにしました。

ーぬくー

うれしそうに

リズムカルに

「3つの人工海浜」

いなげの浜、検見川の  
浜、幕張の浜は、東京湾  
の埋め立てにより造られ  
た人工海浜で、3つの砂  
浜を合わせた長さは約  
4.3 kmと日本一の長さ  
をほこります。

いなげの浜では海水浴  
などを楽しむことができ  
ます。



11

それからしばらくすすんでいくと、

コッピ 「さあ、ふたりとも、もうすぐおうちだよ」

なんとふたりは、知らないあいだに、  
いつもの公園こうえんにいました。

かづき 「あれ？ いつもの公園こうえんだ。

ありがとう、コッピ」

みーこ 「帰かえってこられた！ よかったあ」

ふたりがふりむくと、

コッピのすがたはどこにもありません。

かづき 「あれ？ おーい、コッピー〜！」

ふたりはコッピのことをさがしましたが、  
けっきよく、見みつけることはできませんでした。

そのとき、むこうから、

ふたりをよぶ声こゑが聞こえてきました。

おとうさん 「おーい、かづきー、みーこー。帰かえるぞー」

ーぬくー

ホッとしたようすで

よびかけるように



⑫

かづき 「あっ、おとうさんとおかあさんだ」

ふたりがかけよると、

おとうさんとおかあさんが、  
顔をのぞきこんできました。

おかあさん 「なんだかずいぶん、ほっぺがピンク色ね」

おとうさん 「なにかたのしいことがあったのかな」

かづき 「ぼくたち、すっごいぼうけん

してきたんだよ！」

みーこ 「すっごくたのしかったんだー！」

おとうさん、おかあさん、見て！」

ふたりが両手をひろげて見せると、  
そこには「4つのたからもの」が、  
キラキラとかがやいていました。

おしまい

優しく

子どもらしく元気に

「4つのたからもの」

ふたりが手に入れた宝物は、みなさんが暮らす千葉市というまちの宝物でもあります。

お近くにゆかりの場所がある方は、ぜひ実際の場所と関連付けて話してあげてください。